第１号報告

令和７年度　事業報告

「組織改革と信頼される組織運営」の目的のもと、山梨県バレーボール協会は一般社団法人山梨県バレーボール協会として新たな一歩を踏み出すことを最大な目標に、４月１日に法人登記を行い、移行期間を設ける中、７月１日に法人として活動を開始し，所期の目標を達成した。

しかしながら、活動の透明性・信頼性、法的な保護と責任の明確性、資金調達や助成金確保の優位性、組織の永続性といった高みを目指すものの、根底をなす法人化による組織基盤の強固や運営の安定化は容易なものでなく、令和８・９年度の２年間でいかに懸案解決を図るかが喫緊な課題である。

こうした中、本県においては、令和１４年に開催される国民スポーツ大会の準備が始まり、競技運営と強化対策を担う競技団体として、その重責を再確認する必要がある。

ビーチバレーボールの少年男女は北杜市での開催が内定したものの、６人制バレーボールの４会場地が未だ全て確定に至っていない状況であり、関係機関とより一層緊密な連絡調整を図る必要がある。

また、強化対策面では、少年・ビーチは中・高との連携した強化計画、成年はＶリーグや大学チームとの強化のあり方等について具体的に協議していく必要がある。

当面する二つの課題について見解を示すとともに、今年度掲げた７つの重点項目・目標にについて、以下総括することとする。

重点項目・目標

(1)　競技力向上への取り組み

将来的にＶリーグで戦えるチームの発掘を見据える中で、国民スポーツ大会関東ブロック大会（ミニ国スポ)、次期「山梨国民スポーツ大会（国スポ)」に向けての強化に取り組む。

① 山梨県の競技力向上対策の最重点事項である国民スポーツ大会出場に向けた、各種別のブロック大会の突破に向けての対策並びに本国スポへの強化
② 次期「山梨国スポ」開催に向けた長期的な強化対策の検討
③ 大会の勧誘や高体連を中心とした競技人口の増加とビーチバレーボールの強化
④ 小中高の連携・一貫した競技力の強化

最重点事項であった国民スポーツ大会関東ブロック大会突破、本国スポ出場権の獲得については、インドアの少年男子、少年女子の2種別で見事に関東の厚い壁を突破し、代表権を獲得した。本国スポでは、全国の強豪相手に健闘したが、航空高校主体の男子は1回戦を突破したが ２ 回戦で敗退、選抜チームで編成した女子はフルセットまで粘ったが勝利をつかむことはできなかった。このようなことから全国と戦えるような選手一人一人のレベルアップやさらなる強化が求められる。

一方、成年は、強化指定の山梨学院大学にふるさと選手(V リーグ)という編成の男子はフルセットで、女子は同じく強化指定の山梨中央銀行が SV リーグチームにそれぞれ1回戦敗退と、残念な結果となった。このようなことから、男子については、来年度は強化指定チームを設けず、予選を行うこととした。女子は、選手補強、Vリーグ参画、実績を踏まえ、引き続き山梨中央銀行を強化指定チームとし、その活躍を期待するものである。

また、ビーチバレーボールの競技人口や大会参加者がこれまでの取組の成果や各連盟の協力により、増加を続けている。国民スポーツ大会関東ブロック大会でも男女とも健闘していた。来年度は「山梨国スポ」にむけての強化も掲げ、インドア・ビーチともにさらに推進させていきたい。

大学生は関東大学リーグ2部に男女4チームが在籍、高校生は春高で男子航空がベスト16、中学生は全中で航空中がベスト16、JOC では女子がグループ戦突破などと一定の成果を上げており、今後も小中高の連携を推進させ、強化を図っていきたい。

(2) 普及・振興への取り組み

バレーボール競技は、「自分のからだとこころのつながり」「自分とひととのつながり」「ひととひととのつながり」を大切にし、「する・見る・支える」ひとたちの‘’つなぐ力‘’を育むと言われている。

バレーボールの素晴らしい魅力を伝えるとともに、バレーボールの普及・振興に取り組む。

① 山梨中央銀行バレーボール部との連携による「小学 6 年生バレーボール教室」「さわやかキッズバレーボール教室」「キッズバレーボール幼児出前教室」及び「中学生セッタースクール」などによる若年層への普及事業の推進

② 各種関東大会並びに全国 6 人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会開催を通じた、バレーボールの魅力をアピール。

③ 競技人口・ファンの増加等によるチーム数の拡大と、大会等のプレーをする場の設定による新たなバレーボーラーの発掘

④ 次期「山梨国スポ」に向けた指導者の育成とヤングバレーボール大会、U14、U15 大会並びに新規地域クラブチームの拡大をとおしてジュニア層の競技人口の拡大

⑤ Ｖリーグで戦えるチームの発掘とサポートの強化によるバレーボール人口・人材の発掘及び県内バレーボールファンの増加

普及強化委員会を中心に、山梨中央銀行バレーボール部や各連盟の支援・協力をいただきながら、「さわやかキッズバレーボール教室」及び「中学生セッタースクール」など、計画どおり実施し、多くの事業で大きな成果をあげることができた。

次に、JVAから委託された「小学校授業支援プログラム」では、JVA 派遣講師と連携を図りながら、山梨学院大学女子バレーボール部の協力をいただき、大明小、竜王小、常永小の3小学校で実施、全国的にもいち早く取り組み、高評価をいただいた。

また、1月に開催した全国 6 人制バレーボールリーグ総合男女優勝大会では、参加チームの応援団や高校の後輩等の観客はいたものの、小中学生の姿は少なく、大会の周知に工夫を必要といえる。

来年度、JVA主催のVリーグ（新社会人リーグ）へ県内2チームが参入についても支援を行ってきた。今後も可能な協力・支援を行い、安全・安心な大会運営を心がけ、バレーボール人口の拡大やバレーボールファンの増加につなげていきたい。

中学校の部活動の地域展開については、思うような進展がなく、今後も支援が必要であると考えている。

(3) 人材の発掘と育成

昨年度開催された各関東大会の反省の上に立ち、本年度開催の天皇杯・皇后杯関東ブロックラウンドをはじめ、県協会主催・主管大会の適切かつ円滑な競技運営と新たな人材発掘・競技会役員・審判員の育成

① 天皇杯・皇后杯関東ブロックラウンド、全国６人制総合男女優勝大会をとおして・県協会主催・主管大会の競技マニュアル化による円滑な大会運営、並びに審判員の発掘・育成、技術統計の技術の向上

② 次期「山梨国スポ」開催に向け、高校生・大学生の若手、および女性の競技役員、審判員の発掘及び育成
③ 国際的視野に立った、国際レベルで活躍できる審判員の発掘・育成
④ ビーチバレーボール専門審判員の発掘・育成

天皇杯・皇后杯関東ブロックラウンドについては、JVAからの委託事業であったが、多くの県内役員に協力いただき、無事に大会を終了することができた。JVA、関東連盟の役員からもお褒めの言葉をいただいた。

このような大会を技術統計のスキルアップを図る機会と捉え、自主研修に重ねていく必要性を感じたところである。今後も引き続き審判委員、競技委員等の育成に努めていく必要がある。また、次期「山梨国スポ」を見据えた審判員・競技役員の確保が必要であり、養成計画を策定する必要がある。

さらに国際審判員を誕生させるためには、本人の努力だけでなく、それを取り巻く環境づくりが肝要であり、そのためにも検討を進めていきたい。また審判員の育成は、競技力の向上にもつながるものであり、ビーチバレーの審判員の育成も同様である。これらのことから、競技と連動した取り組みが考えられる。

(4) コンプライアンスの徹底

近年、本県においても反倫理行為（暴力・体罰等）が発覚した。本案件の喫緊性、重要性を改めて認識し、このことを真摯に受け止めている。

今後、指導者をはじめ関係者が自らの言動について批判を受けることのないよう、ＪＶＡコンプライアンス規程、ＪＶＡ指導における倫理ガイドライン、コンプライアンスホットライン制度運用規程、ＹＶＡコンプライアンス要綱等を再確認する必要がある。

新たに設置したコンプライアンス委員会を中心にコンプライアンス体制の確立、醸成、定着を図り、今後も法令順守に軸足を置き、バレーボールの健全な普及・発展のために、取り組みの継続、具現化、充実に努めていきたい。

① コンプライス違反を予防するための研修会の開催
② コンプライアンス意識の啓発に役立つポスターの作製、プログラムへの掲載、啓発用旗による普及啓発

2023 年に県内高校バレーボール部で監督による部員への体罰事案があったことは記憶に新しい。また昨年度、ガバナンスの脆弱さに起因し、大会運営等においてスポーツ・インテグリティ（誠実性・高潔性）に欠ける事案が発生した。今年度、スポーツ・インテグリティ（誠実性・高潔性）やコンプライアンス意識の啓発につながる取組を実施することができなかった。

発足したコンプライアンス委員会が機能を十分に果たしていない状況にあり、各種規程の検証を行うとともに、研修会の開催、啓発活動の積極的展開など、次年度に課題として残っており、これらを踏まえ、今後もガバナンス及びコンプライアンス体制の強化に取り組んでいきたい。

(5) 財務基盤の安定化

協会組織の活性化、バレーボール競技の振興に貢献するため、収入の確保、経費の適正利用を推進。

① バレーボール人口の増加による個人登録料、チーム登録料の増収
② 「正会員」、「サポーター会員」等の増加に向けた募集活動の強化

③　効果的な経費支出に向けた事業内容の見直し

法人化を実現し、個人登録料の改定を行うなど大きく前進することができた。また、引き続き「正会員」「サポーター会員」等の増加に向けた広報活動も行ってきた。

しかし、財務改革についての課題は依然多く、今後も効果的な経費支出に向けた事業内容の見直しを行うとともに、財源確保に向けた具体的な方策について検討する必要がある。

主催大会の大会参加料の在り方や入場料の徴収など課題を含め検討する余地がある。法人設立3年程度は、旧協会時代の積立金等で運営資金を確保できる見込みだが、その後の財政状況を見極めながら、いかに法人経営を構築するか、最も重要な課題である。

(6)　広報戦略の充実

広報活動は、バレーボールファンや競技人口の拡大に重要な役割を果たしています。

ＪＶＡを始めとする様々なバレーボールに関する最新情報をリアルタイムで提供できる体制構築を進めます。

①　「広報部」の活性化

②　「ホームページ」の利用促進と競技運営委員会と連携しながら、ＳＮＳ（動画配信を含む）などを含めた電子媒体の活用

③　マスメディアとの連携強化

今年度、協会のHPを刷新するとともに、インスタグラムを立ち上げ、天皇杯・皇后杯関東ブロックラウンドの速報に活用することができた。

今後も広報部が中心となり、掲載内容について検証し、さらに魅力あるHPと内容の充実に努めるとともに、多くの方々に閲覧していただき、バレーボールに興味を持っていただけるよう今後も有効に活用していきたい。

次に、マスメディアを活用した情報提供も広報戦略としては大切であり、「小学校授業支援プログラム」「Vリーグ参画」「香港チームとの交流事業」など報道機関への適時適切な情報提供に留意したところである。

さらに、学連では、関東大学リーグの戦績を新聞社に提供するなど新たな取り組みに見られ、各連盟での積極的な企画を期待するものである。

(7)　様々なバレーボールの振興

インドア以外にも幅広く、アウトドアバレーボールの振興を図ります。

①　ビーチバレーボールの振興

②　スノーバレーボールの振興

・北杜市、サンメドウズ清里スキー場、その他企業の支援を得る中で、「スノーバレーボール大会」の開催

ビーチバレーについては、各種大会等を見ても競技人口の増加が見られる。今後も「山梨国スポ」にむけて取り組みを推進させていきたい。サンドコートの有効利用など検討を重ねていきたい。

スノーバレーについては、盛大なイベントとなるように準備を進めてきたが、雪不足のために残念ながら大会を実施することができなかった。来年度の開催に向けて、各方面と協議を重ねながら実施を目指していきたい。